

2004／2005 沖縄における道路行政の 達成度報告書／業績計画書^{*1}

沖縄ブロック幹線道路協議会^{*2}においては、昨年度策定した「沖縄における道路事業業績計画書」について、各アウトカム指標^{*3}の達成度を確認（達成度報告書）し、新たに平成17年度の業績計画書を策定しました。

また、10月4日に沖縄地方道路懇談会^{*4}を開催し、委員の意見を踏まえて作成しております。

■道路行政の転換

平成15年度より、社会資本整備を、事業による成果（アウトカム）で評価する取り組みをスタートさせております。

■主なアウトカム指標の平成16年度の達成度

1. 規格の高い道路を使う割合

規格の高い道路を使う割合が高くなると、一般道路の渋滞緩和、交通事故数の減少及びCO₂の削減などの環境改善に寄与します。ETC利用車両を対象にした割引制度導入により、規格の高い道路を使う割合が6.8%から6.9%と0.1%高くなりました。

2. 道路渋滞による損失時間

渋滞状況を調査しているモニタリング区間^{*5}において、渋滞損失時間が43.5百万人時間／年から50.3百万人時間／年と15%増加しました。これは、渋滞の損失時間を測定しているモニタリング区間の変更に伴い旅行速度の測定方法を一般車による実走行調査から、路線バスによる調査へ変更したことが要因として考えられます。

（モニタリング区間：昨年度：約106km→今年度：約193km）

3. ETC利用率

ETCを利用することにより、料金所渋滞緩和、環境負荷の低減効果が図られます。ETC利用車両を対象にした割引制度の導入によりETC利用

率は、1.6%から5.0%まで増加しましたが、目標値の16%を達成することはできませんでした。なお、平成17年8月現在では12.8%の利用率になっています。

4. 道路交通における死傷事故率

交差点改良などの交通安全事業を実施した個所については、死傷事故件数は大幅に削減されましたが、全体の死傷事故件数は、前年に比べて約6%増加したため、死傷事故率は、目標値を達成することはできませんでした。

■平成17年度の取り組み方針

1. 平成17年度は、平成16年度の達成度の結果を踏まえ、引き続き中期(平成19年度)目標の達成に向けて努力してまいります。
2. 平成17年度は、平成16年度に設定した13のアウトカム指標を引き続き継続し、新規で空港・港湾まで、30分以内で安全かつ安定的に走行できる人の割合等2つのアウトカム指標を追加し15のアウトカム指標を設定しました。
3. 引き続き道路に関する県民のニーズを把握し、案内標識の改善など観光の支援にも取り組んでいきます。

※1. 達成度報告書・業績計画書とは

前年度に策定したテーマごとの目標について、アウトカム指標を用いて達成度を確認(達成度報告書)し、その結果や反省を本年度の道路行政に反映(業績計画書)するものです。

※2. 沖縄ブロック幹線道路協議会とは

沖縄県における幹線道路網整備のあり方、事業計画、及びそれらに付帯する事項等を調整し、沖縄県における均衡ある道路網整備の推進を図ることを目的としています。

※3. アウトカム指標とは

施策・事業を実施するにあたり、発生した効果・成果(アウトカム)を表す指標を意味します。

※ 4. 沖縄地方道路懇談会とは

道路事業に対し学識経験者及び有識者のご意見やご指導、を賜る場として設立された場です。

※ 5. モニタリング区間とは

渋滞損失を算定するために毎年度継続して調査している区間で、全国の累積渋滞損失時間の上位 6 割をカバーする区間。(沖縄県においては、約 193 km を設定)

問い合わせ先
沖縄ブロック幹線道路協議会・事務局
沖縄総合事務局 開発建設部
道路建設課長 たなかまもる 田中 衛
道路計画調整官 きしやばまさひで 喜舎場正秀
電話番号 098-866-0091